

ダイヤルアップ接続でもできる
自作メールングリスト



メールングリストに質問を投げたら、すぐに返事が返ってきて感激！なんて経験があるだろう。仕事や趣味に役立つ情報を電子メールで交換できるメールングリストはなかなか便利。

でも、参加したいメールングリストがなかったり、仲間内で開設したりしたいときは自分でメールングリストを作ってみては？「そんなことできるの？」と思うかもしれないが、自分のパソコンで簡単に作れるのだ。今回から2回連続でメールングリストの作り方を紹介する。第1回は、E-MailClubというソフトを使ってメールングリストを作ってみよう。

いとうくにお



E-mailClubの体験版が
本誌付録CD-ROMに収録されています。

収録先：

WIN EMAILC



メーリングリストを活用しよう

さまざまなテーマを扱っている
メーリングリスト

パソコンから旅行、グルメやスポーツまで、インターネットの世界ではさまざまなテーマを扱うメーリングリストが開設されている。すでに、いくつかのメーリングリストに参加して、いろいろと情報交換している人も多いことだろう。

いま参加している以外にもどんなメーリングリストがあるか知りたいなら、Yahoo!JAPANなどで検索するという方法もある。あるいは、メーリングリストが多数紹介されているウェブサイト「月刊ML紹介」(<http://www2j.meshnet.or.jp/odajima/ml/ML-in-JP/>)にアクセスしてみてもいいだろう。海外のメーリングリストについてはPublicly Accessible MailingList (<http://www.neosoft.com/internet/pam1>)から情報が得られる。

また、本誌の別冊付録「趣味と生活に役立つメーリングリストガイド」で自分に合ったメーリングリストを探してみるのもいいだろう。

自分でメーリングリストを作る

ただ、こうしたサイトを探しても、自分の入りたいと思うメーリングリストがない場合もある。また、仕事で部署内の小規模なメーリングリストを作りたいとき、いちいちシステム管理者に頼むのも面倒だ。そんなときは新しいメーリングリストを自分で作ってみてはどうだろうか。

メーリングリストを作ると言う、なんだかすごく難しそうだが、専門的な知識や特定の設備がなくても自分でメーリングリストを作ることができるのだ。

たとえば、メーリングリストを開設できるサービスを用意しているプロバイダーを利用すれば、そこでメーリングリストを管理してくれる。実際、IIJやASAHIネットなど多くのプロバイダーが月々1,000円以下の料金でメーリングリストのサービスを提供している。

また、最近では、自分のパソコンで参加者の管理をしてしまおうという発想のソフトも発売されている。それが今回紹介するE-MailClubだ。



E-mailClubの仕組み

サブジェクトでメーリングリスト宛のメールを判断

では、そのE-MailClubで、どのようにしてメーリングリストのメールの送受信をするのだろうか。

まず、E-MailClubで自分が作ろうと思うメーリングリストのアドレスに自分が通常使用している個人メールアドレスを登録しておく。メーリングリスト参加者にそのアドレス宛にメールを出してもらって、当然通常自分宛にくるメールと同じアドレスにメーリングリストのメールが届くが、その中からメールのサブジェクトによってメーリングリスト宛のメールだけを選び出してメーリングリスト参加者全員に送信する。つまり、通常のメールソフトのサブジェクトによるメール振り分け機能を応用したのがE-MailClubというわけだ。

せっかくこのE-MailClubを使用して自分のメーリングリストを作ったとしても、メールを受け取るときに通常のメールソフトで受け取ってしまうと、せっかくメーリングリスト宛に来たメールが参加者に送信されない。そうならないためには、最初にE-MailClubを起動させておき、メーリングリスト宛のメールだけをダウンロードして参加者に送信してから(右図「E-MailClubでメールを受信するときの仕組み」の手順1)、Eudoraなどのメールソフトでメー

ーリングリスト宛のメールと通常のメールを受信するようにしよう(手順2)。

一般にメーリングリストのアドレスは専用のアドレスを使用するが、E-MailClubで設定したメーリングリストは自分の個人アドレスがメーリングリストのアドレスになるため、このような振り分け操作が必要なのである。

しかし、自分のアドレス以外にメーリングリスト用として新たにメールアドレスを作って使い分ければ、このような手間は省くことができる。

少人数ならE-MailClub、大人数ならプロバイダーを利用

よって、このソフトは大人数のメーリングリストを作るときには適切ではない。とくにダイヤルアップ接続で利用している場合に大量のメールを送受信しなければならないとすると、その電話代だけでもけっこうな負担になってしまう。サークルや仕事のプロジェクトグループなど、小規模のメーリングリストを開設したい人向けだ。参加者が大人数になるときは、プロバイダーを使ってメーリングリストを開設したほうがいいだろう。これについては、次号で解説する予定だ。

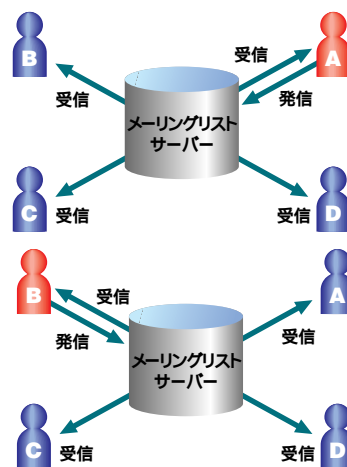
メーリングリストとは?

メーリングリストとは、特定の話題について電子メールを使って情報のやり取りをするための仕組みだ。参加者が送信したメールに対して参加者全員に送信できるので、同じ情報が共有できる(下図参照)。

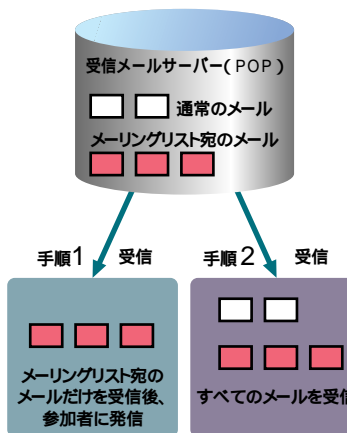
電子メールという非常にベーシックなアプリケーションで情報の共有ができるのがメーリングリストだ。

メーリングリストの仕組み

参加者が発信したメールはメーリングリストサーバーによって全参加者に送信される。Aが送信したメールはA、B、C、Dに届き、Bが送信したメールもA、B、C、D全員に届く。



E-MailClubでメールを受信するときの仕組み





E-MailClubのダウンロード

まず、E-MailClubを入手しよう。
本誌付録CD-ROMに収録されている評価版、もしくはアドミラルシステムのウェブサイトにある評価版をダウンロードしよう。
評価版では、設定できるメーリングリスト(E-MailClubでは「クラブ」という)が2つま

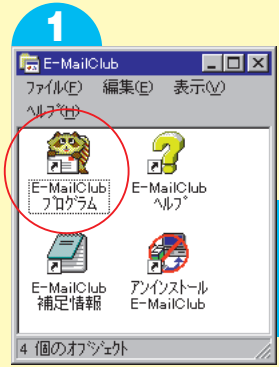
で、参加できる人数が5人までで、試用期間が30日間という制限が付く。製品版を購入すれば、これらの制限は付かなくなる。製品版を購入する場合はアドミラルシステムのウェブサイトから申し込もう(詳細は345ページ)。

E-MailClub
動作環境: Windows95日本語版またはWindowsNT4.0日本語版
価格: 5,800円(税別)
入手先: 本誌付録CD-ROMもしくは
<http://email-club.admiralsys.com/>
からダウンロード
問い合わせ先: アドミラルシステム
 TEL 048-259-5111

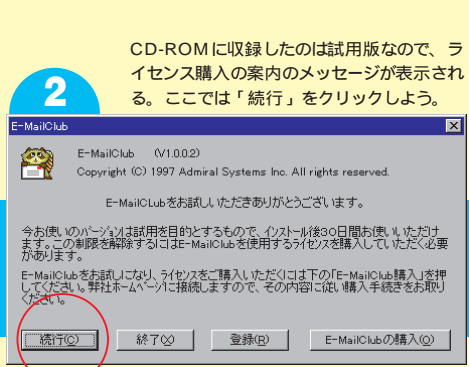


E-MailClubの設定

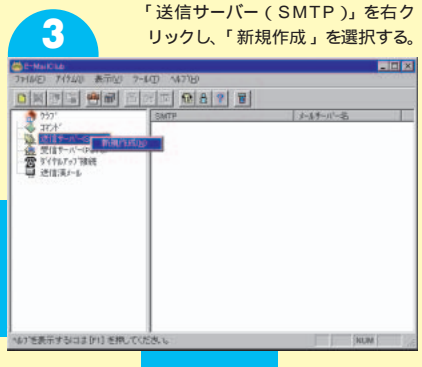
ここではダイヤルアップ接続でメールを使用している人が「青雲ML」という名前のクラブを作るものとして設定方法を説明しよう。



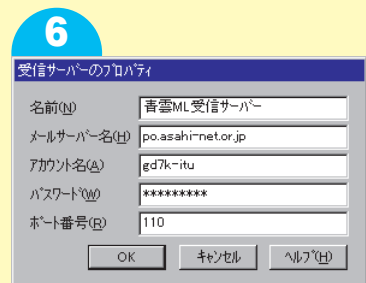
1 アライグマのアイコンをダブルクリックしてE-MailClubを起動する。



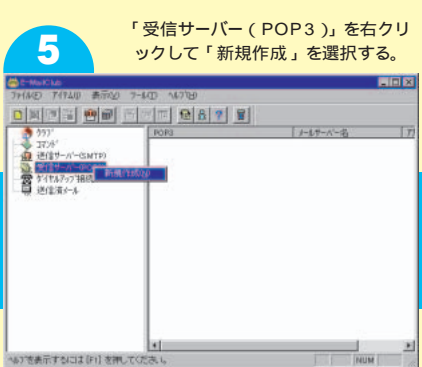
2 CD-ROMに収録したのは試用版なので、ライセンス購入の案内のメッセージが表示される。ここでは「続行」をクリックしよう。



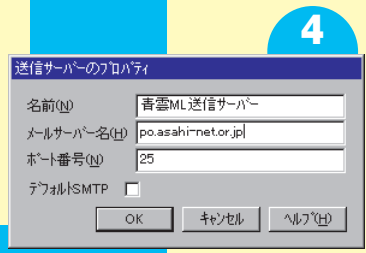
3 「送信サーバー(SMTP)」を右クリックし、「新規作成」を選択する。



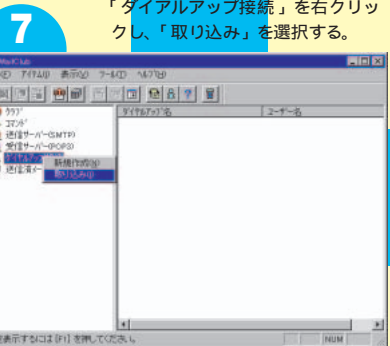
6 「名前」欄に受信サーバーの呼び名を入力する。「メールサーバー名」欄には受信サーバー(POP3サーバー)名を入力する。「アカウント名」欄と「パスワード」欄にはメール用としてプロバイダーから指定されているアカウント名とパスワードを入力する。



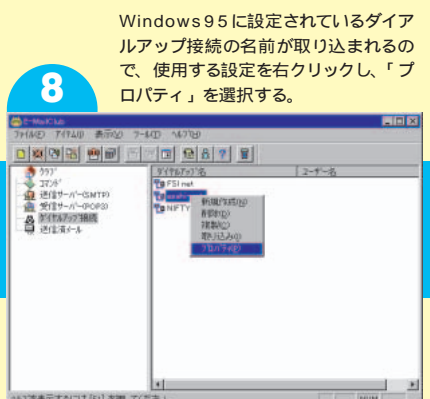
5 「受信サーバー(POP3)」を右クリックして「新規作成」を選択する。



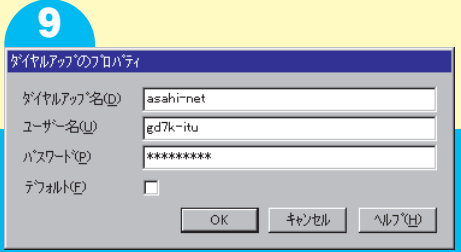
4 「名前」欄に送信サーバーの呼び名を入力する。どのクラブで使うサーバーかが分かるような名前にしておく。「メールサーバー名」欄にはプロバイダーの資料に記載されている送信サーバー(SMTPサーバー)名を入力する。



7 「ダイヤルアップ接続」を右クリックし、「取り込み」を選択する。



8 Windows95に設定されているダイヤルアップ接続の名前が取り込まれるので、使用する設定を右クリックし、「プロパティ」を選択する。

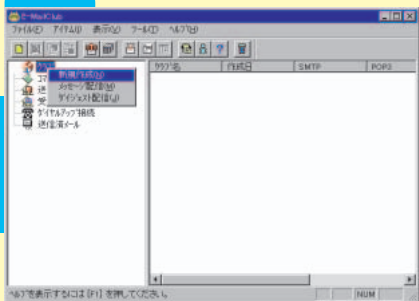


9 「ダイヤルアップ名」欄は変更せず、「ユーザー名」欄と「パスワード」欄にダイヤルアップ接続で設定してあるのと同じユーザー名とパスワードを入力する。



10

「クラブ」を右クリックし、「新規作成」を選択する。



11



「クラブ名」欄には半角英数字でクラブ名を入力する。短めにしておいたほうがあとで楽だ。「主催者の名前」欄と「メールアドレス」欄には自分の名前とメールアドレスを入力する。

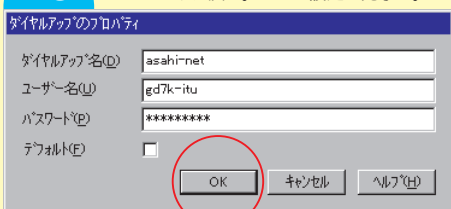
12



4で設定した送信サーバーをクリックする。

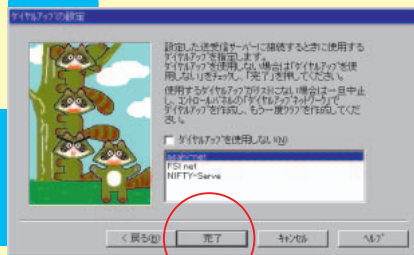
15

「OK」をクリックしてメインのウィンドウに戻る。これで設定は完了だ。



14

9で設定したダイヤルアップ接続をクリックし、「完了」をクリック。



13

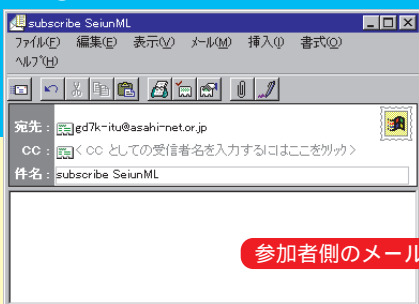
6で設定した受信サーバーをクリックする。



E-MailClubによるメーリングリストの運用

16

マイクロソフトのインターネットメールによるメールの作成例



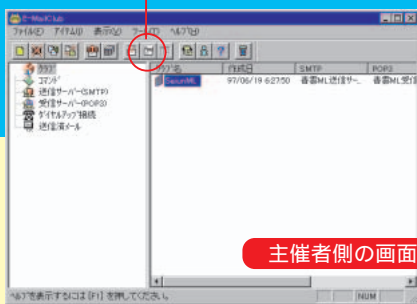
参加者側のメール

E-MailClubの設定が終わったら、参加希望者に主催者（自分）のメールアドレスにメールを送ってもらおう。本文は空のまま、メールの件名（subject）欄は「subscribeクラブ名」としてもらおう。

以上がE-MailClubによるメーリングリスト運営の概略だ。ここではE-MailClubの基本的機能だけを説明したが、これ以外にも、定期的に自動でメッセージ配信を行う機能や、E-MailClub上で参加者全員にメールを送信する機能、一定期間のメールをまとめて送信するダイジェスト機能などメーリングリストを運営するうえで役に立つ機能が用意されている。

17

メッセージ配信ボタン

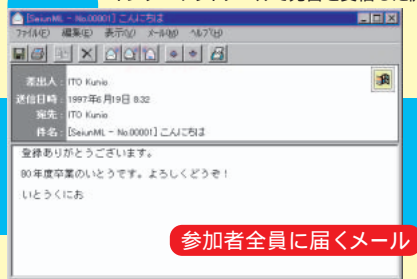


主催者側の画面

主催者はE-MailClubのメインウィンドウでクラブ名をクリックし、メッセージ配信ボタンをクリックする。

20

インターネットメールで発言を受信した例

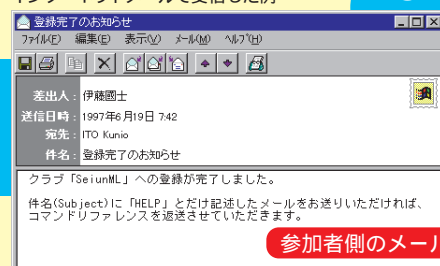


参加者全員に届くメール

主催者がメッセージ配信（17と同じ）を行うと、発言メールは自動的に参加者全員に送信される。

18

インターネットメールで受信した例

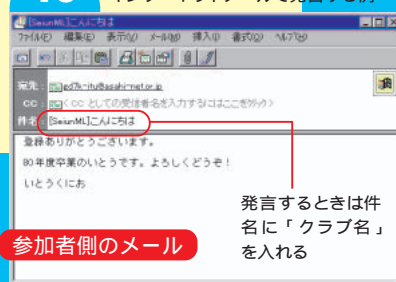


参加者側のメール

これでダイヤルアップ接続が行われる。参加申し込みのメールが届いていれば、自動的にメンバー登録され、登録完了を知らせるメールが参加者に送信される。

19

インターネットメールで発言する例



参加者側のメール

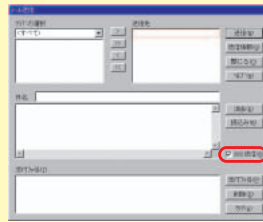
発言するときは件名に「クラブ名」を入れる

発言するときは件名に「クラブ名」を含めて主催者のメールアドレスにメールを送る。件名にクラブ名が含まれていないメールはそのメールアドレスの人宛の私信となり、参加者に送信されない。



ほかにもこんな機能が

ここまでの説明ではE-MailClubの基本的な機能について解説したが、それ以外にもいろいろと便利な機能があるので紹介しよう。これを活用して、ぜひオリジナルのメーリングリストを作ってほしい。



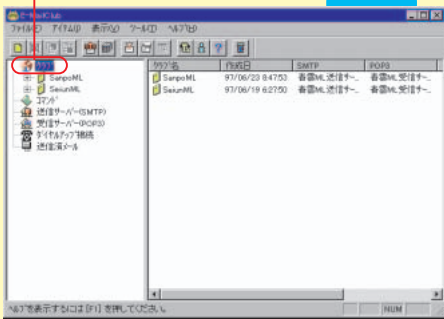
ダイヤルアップ接続の電話代を節約するには？
「BCCでメッセージ配信」の機能を使おう。「クラブ」の「プロパティ」の接続タブにある「BCCでメッセージ配信」をONにしておけば、参加者が10人いても20人いても電話線を通してメールサーバーに配信されるメールは1通だけになる。あとはメールサーバーがメーリングリストの参加者に配信してくれるので、電話代が節約できるというわけだ。

参加者の管理

E-MailClubのウィンドウでは参加者の一覧を表示でき、その場で参加者の登録、退会、設定変更が行える。

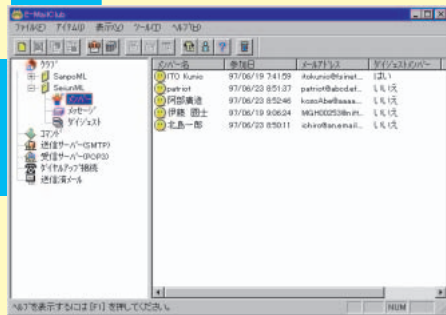
クラブのアイコン

21



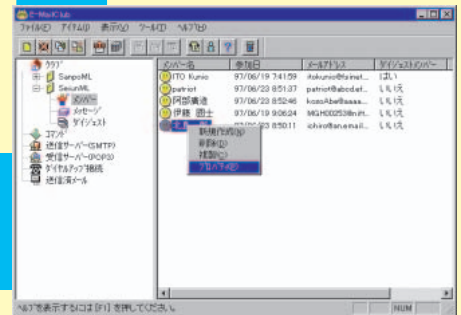
「クラブ」アイコンをダブルクリックすると、クラブ名一覧が表示される。

22



クラブ名一覧の左の「+」をクリックすると、クラブ名の下にメンバー、メッセージ、ダイジェストの各アイコンが表示される。最初は「メンバー」アイコンが選択されているので、ウィンドウの右側にはメンバーの一覧が表示される。

23



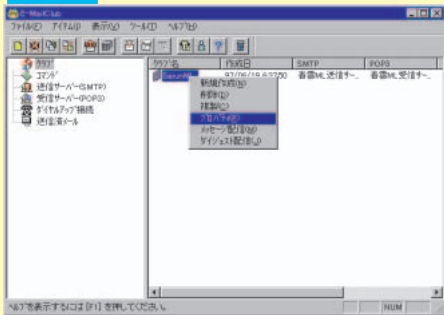
メンバー名を右クリックするとメニューが表示される。「削除」を選べば、そのメンバー（参加者）がメーリングリストから削除される。「プロパティ」を選べば、その参加者をダイジェストメンバー（後述）にするなど、設定を変更できる。

メッセージの自動配信

前ページではツールバーのメッセージ配信ボタンをクリックしてメッセージの配信を行う方法を説明したが、指定した時刻にこれを自動的に実行させることができる。

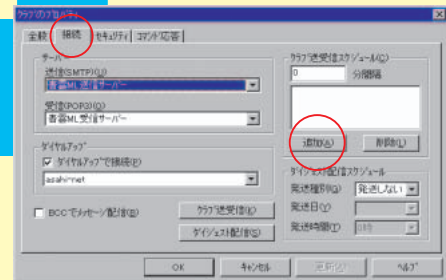
図24から図26までの設定をしたあと、E-MailClubを起動しておけば、毎日指定時刻に自動的にメッセージ配信が行われる。

24



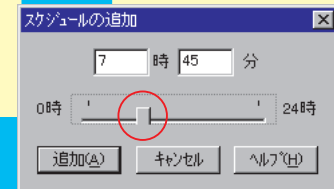
クラブ名を右クリックし、ポップアップメニューから「プロパティ」を選ぶ。

25



「接続」タブをクリックし、「追加」ボタンをクリック。

26



スライダーをドラッグして配信時刻を設定する。





メーリングリストを活用しよう

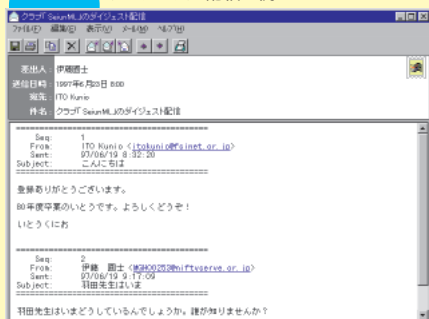
ダイジェスト配信

これはメーリングリスト用のサーバーソフトにあるダイジェスト機能と同様のものだ。つまり、メーリングリストのメールを個々に送信するのではなく、一定期間ごとにメールを1つに

まとめて送信する機能なのである。ダイジェスト配信を行うかどうかは参加者ごとに設定できる。

27

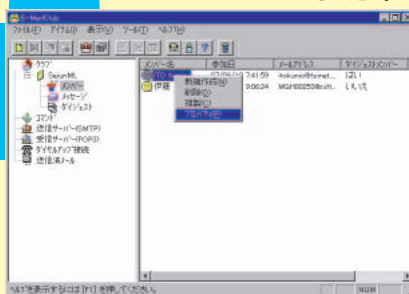
ダイジェスト配信の例



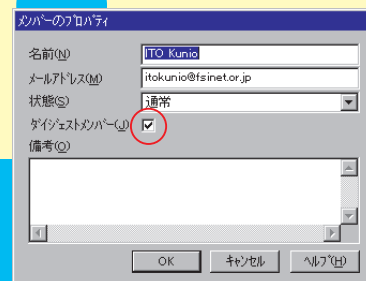
ダイジェスト配信で送られたメール
(Internet Mailで受信した例)

28

メンバー一覧でメンバーを右クリックし、メニューから「プロパティ」を選ぶ。



29



「ダイジェストメンバー」というチェックボックスをクリックし、チェックマークを入れる。

メーリングリストを作るときの注意

ここではE-MailClubの場合だけでなく、一般のメーリングリストも含め、公開メーリングリストを開設する場合の注意点について説明します。

メーリングリストを開設する際には、まずメーリングリストの目的やテーマを明文化しておきましょう。そして、参加者の募集案内にもそれを明記しておきます。メーリングリストでは発言が全参加者へ<メール>として届くため、目的から外れる話題は多くの参加者にとって迷惑なものとなります。ですから、メーリングリストの目的やテーマを参加者に意識してもらうことが重要です。話題が外れてきた場合は、ころあいを見て主催者が注意を促すことも必要でしょう。

ネットワーク上のコミュニケーションではありがちなことですが、議論が論争へ、論争が罵倒合戦(フレーミングといいますが)へと発展することも考えておいたほうがよいでしょう。それを目的としたメーリングリストの場合は別として、そうなるのはせっかくのコミュニケーションの場がダイナミクスで、退会者が続出すること請け合いです。

筆者が個人的に見てきた例を振り返ると、

論争相手の人格に言及する発言がキッカケとなることが多いようです。たとえば、「どうしてそう思うのですか?」とだけ書けばよいところを、それに続けて「そう思うあなたはどうかしているんじゃないの?」と書いてしまうと、フレーミングの原因になりやすいのです。

そういったことを避けるため、「メーリングリストでは相手の人格に言及しないこと」などのルールを設けておくことをお勧めします。ルールを守らない参加者については、場合によっては退会してもらったこともあるかもしれません。

これだけ読むと、メーリングリストの開設についてネガティブな印象を与えてしまいがちですが、テーマを絞って意見や情報を交換できるメーリングリストはやはり魅力的です。小規模なグループの電子的コミュニケーションの手段としても、これ以上のものはないでしょう。

次号では、プロバイダーのメーリングリストサービスを例に、参加者の募集の方法やメーリングリストの運営方法について詳しく説明する予定です。

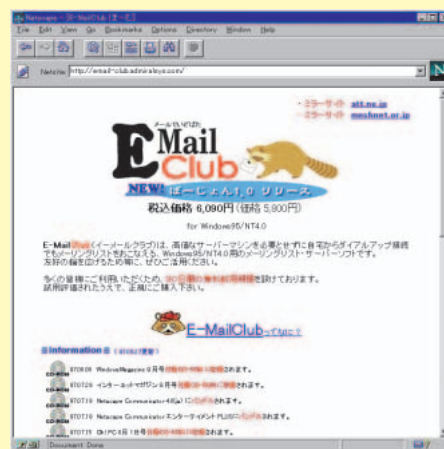
製品版を購入するには?

製品版の購入はE-MailClubのウェブサイトから行う。

住所、氏名、使用する「ユーザー名」、支払い方法などの必要事項をウェブサイトにある注文用紙に入力して送信すると、アドミラルシステムからメールで「受付番号」が知らされる。

その後、銀行振込もしくはクレジットカードで代金を支払うと、メールで「パスワード」が届けられる。

「ユーザー名」「受付番号」「パスワード」の3つをE-MailClubの画面表示に従って入力すれば、正規登録完了。製品版として使用できるようになる。



アドミラルシステム
E-MailClub
<http://email-club.admiralsys.com/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp